

第2回箱根ステップアップキャンプ

実施報告書

実施日 2025年9月20日（土）～21日（日） 1泊2日

主催 ユニバーサル・ピア
箱根ステップアップキャンプ実行委員会

1 はじめに

2025年9月20日（土）から21日（日）にかけて、星槎大学箱根キャンパス・流星館を中心に、箱根湯本および仙石原地域にて「第2回箱根ステップアップキャンプ」を実施いたしました。

まずはじめに、本キャンプにご協力いただいたボランティアの皆様、星槎大学箱根キャンパスの安野様をはじめとする職員の皆様、そして多くの方々からいただいたご支援に心より感謝申し上げます。

本事業は、バリアフリー宿泊施設である流星館を活用し、障がいのある方々とボランティアが共に過ごすキャンププログラムとして、弊社代表の新井の発案により始まりました。具体的には、以下の3つの目的を掲げて実施しております。

- 1、障がいのあるユース世代が社会に出る力を身につけられる場の提供
- 2、障がいのある方と直接関わる場の創出
- 3、介護を担う家族の皆様にも、箱根でゆったりと過ごしていただく時間の提供

これらの目的達成を目指し、キャンプの企画・運営を進めてまいりました。昨年は、第1回箱根ステップアップキャンプとして総勢8名で開催しました。今年はより多くの参加者を募集すべくFacebookや口コミの公募を行いました。

また、活動資金を調達するため初の試みとしてクラウドファンディングを行いました。試行錯誤しながらどうにか目標達成はしましたが、課題は残る結果となりました。

また、2日目に行った振り返りでは、「泊りがけでは参加のハードルが高い」「事前に集まりが欲しい」等の声が聞かれました。

この事業をどう広げていくか、この事業の目的はどこか等について、再度、実行委員会内でも詳細な話し合いを重ねながらより良い事業になるよう考えていければと思います。

本報告書では、私たちが実施した取り組みや得られた成果、第3回に向けた課題についてご報告させていただきます。そして、この報告書が、箱根で行われている障がい者支援イベントの一つの事例として、多くの福祉団体様にとって少しでも参考となれば幸いです。

今後とも、より良い活動を目指して邁進してまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 実施概要

イベント名	第2回箱根ステップアップキャンプ
実施日	2025年9月20日（土）～21日（日） 1泊2日
開催場所	星槎大学箱根キャンパス・流星館 箱根観光地
主催団体	ユニバーサル・ピア（箱根ステップアップキャンプ実行委員会）
参加者	<p><実行委員会> 新井 丈晴 ユニバーサル・ピア代表 身障者ディスクゴルファー 古山 彩花 ユニバーサル・ピア副代表 薄井 貴之 元HISユニバーサルツーリズムデスク 社会福祉士 3名</p> <p><一般参加者> 東 真樹 藤嶋 慶太 坂本 恵子 古山のホームヘルパー 3名 計6名</p>

3 クラウドファンディング

本年度は、助成金申請が不採択となったため、新たな資金調達手段としてクラウドファンディング（READYFOR）に挑戦しました。

実施を決定したのが6月と直前であったため、十分な戦略立案には至らず、まずはストーリーをまとめて公開することを優先しました。公開後は団体SNSにて案内を行いましたが、積極的な広報活動までは十分に行えませんでした。

その結果、主に関係者・身近な方々を中心に **244,000円** のご支援をいただきました。ご支援金は、実行委員やボランティアの参加費補填、ならびに事業運営資金として活用いたしました。

また、リターンのひとつとして設定した「懇親会へのオンライン参加」には2名の支援者が参加され、現地の参加者と交流を楽しんでいただくことができました。支援者の皆さまに事業を身近に感じていただく機会となったことは、クラウドファンディングならではの成果と言えます。

今回の取組みを通じて、広報戦略やストーリー構築の重要性、外部への訴求力の強化が今後の課題であると認識しました。一方で、少数ながらも確実に応援してくださる方々の存在を確認できたことは、大きな励みとなりました。

4 事業目的

①障がいがあるユース世代が社会に出る力を身につけられる場を

障がいがあるユース世代が社会で生活する準備をする重要な時期に、計画力やコミュニケーション能力などの必須スキルを身につけ、困ることなく自立できるよう支援します。障がい当事者とボランティアからなる「実行委員会」を組織し、自らが「企画」に参加できる場を提供します。

②障がいがある人と実際に関わる場を

障がい福祉を学ぶ学生や、障がいとは無縁の学生や社会人に対し、障がいがある当事者と交流できる場を提供し、新たな気づきや発見が得られる環境を提供します。

③家庭で介護されている家族の皆さんに「箱根」でゆったりとした時間を

(レスパイト)

日頃、障がいがあるお子さんの介護に追われている家族の方々に、気軽に気を休められる場を提供します。お子様を私たちやボランティアに預け、日本有数の温泉地である箱根で、観光や温泉をゆっくり楽しむ時間をお過ごしいただければと考えます。

5 当日の様子

当日のスケジュールは、次のように実施いたしました。

	1日目 (9月20日土曜日)	2日目 (9月21日日曜日)
午前	10:30 箱根湯本駅改札出口集合 集合後、駅前散策 11:00 昼食 (直吉にて湯葉丼)	6:00 起床 7:40 朝食 9:00 星槎大学出発 9:30 桃源台駅着 10:00 ロープウェイで大涌谷へ 10:30 大涌谷駅着 自由散策 11:10 ロープウェイで桃源台へ 11:40 桃源台駅着
午後	12:25 箱根湯本駅発 13:01 彫刻の森駅着 13:10 彫刻の森美術館着 見学約2時間 15:15 彫刻の森美術館発 16:00 強羅駅発 16:30 流星館着 17:30 お風呂 18:45 夕食 20:30 懇親会・交流会	12:00 桃源台のビューレストランにて 昼食 13:10 桃源台発海賊船で元箱根港へ 13:50 元箱根港着 14:18 箱根町発 バスで小田原駅へ 14:50 小田原駅東口着 15:00 UMECOにて振り返り 16:00 解散

<各回の様子>

*1日目 (9月20日土曜日)

10:30 箱根湯本駅に集合 あじさい橋で集合写真

各自遠方から集合のため遅めの集合としました。箱根湯本駅前を少し散策しながら「あじさい橋」で全体写真を撮りました。



11:00 「直吉」にて昼食

散策しつつ、昼食場所として湯葉井で有名な「直吉」に向かいました。

事前に下見に行き表からは段差があることを知り裏から入店。店員さんの計らいで入口手前の席を用意して頂きました。店内は広く事前に伝えておけば車椅子が多くなっても対応してもらえるような感じでした。



12:00 箱根湯本駅へ移動 登山列車で彫刻の森へ

12時ごろ直吉を後にして散策しながら駅へ移動しました。お店を出るとき、雨が降っていたので カップを着て向かいました。登山列車の車内は少し狭かったのですが、電動車椅子2台が同位置に乗ることができました。



13:15 彫刻の森美術館見学

降車駅から2分ほどで着くことができました。園内は広く途中休みながらゆっくりと回ることができました。

小雨が降っていましたが、途中写真を撮りながらみんなで楽しみました。



15:15 強羅駅へ移動

彫刻の森美術館を後にしてバスで流星館へ向かうために強羅駅へと向かいました。彫刻の森美術館からも乗車できますが、車椅子だと途中停留所での乗降が時間かかる為強羅駅で乗車しました。事前連絡を行っていたので、スムーズに対応していただきました。



16:40 星槎大学箱根キャンパス 到着

最寄りのバス停から2分 星槎大学箱根キャンパスに到着しました。職員の鈴木様から館内の説明を受け、入室です。

入室後は、入浴時間まで各自部屋で休憩をしていました。



17:30 入浴

流星館館内にある温泉に入浴しました。

ボランティアさんの方から浴槽内にあるリフトの使用方法について見せてほしいとあったためデモンストレーションを行いました。



18:45 夕食

食堂にて夕食を頂きました。



20:30 懇親会

食堂で懇親会を行いました。

クラウドファンディングのリターンとしてリモートでの懇親会参加の権利を獲得された2名の方が参加されました。

一方で、リアルとリモートを同時に行う「ハイブリッド形式」の難しさも感じました。会場側がリモート画面に集中しすぎて、実際にその場にいる参加者とのやり取りがやや減ってしまう場面もありました。次回以降は、リアルとオンラインのバランスを工夫し両者が自然に交流できる仕組みづくりが課題だと感じました。

懇親会の終盤では、運営団体「ユニバーサル・ピア」の新ロゴマークを発表。多くの方から温かい拍手と祝福の言葉をいただき、会場は笑顔に包まれました。



***2日目 (9月21日 日曜日)**

7:45 朝食と出発準備

朝早く起きて朝風呂でのんびりする人もいました。
食堂にて朝食を頂きました。

9時過ぎのバスで桃源台に向かう予定だったのであまり時間はありませんでしたが、出発際に安野様が出てきてくださり、皆で2日間のお礼を伝えることができました。



9:00 最寄りのバス停まで移動

桃源台に向かうため、最寄りの「仙石案内所前」バス停まで移動しました。バス停までの道のりは、一部車道を走るところもありましたが、多くは車椅子一台分が通れるぐらいの歩道がありました。



9:15 バスで桃源台へ向かう

仙石案内所前のバス停から乗車しました。

同バス停は、「路上バス停」である為、長時間止めておくことが難しかったのですが、古山の電動車椅子はそのまま固定してもらいました。

新井は一旦車椅子のまま乗車途中で座席に移動し、車椅子は折り畳みボランティアに支えてもらっていました。



9:30 桃源台に到着

20分ほどで桃源台に到着。芦ノ湖展望デッキ（桃源台駅前）にて集合写真を撮りました。良い天気だった為 良い景色が見れました。



9:50 ロープウェイで大涌谷駅へ

ロープウェイは、室内は広々としていて車椅子2台を含む私達6人で1台に乗せていただきました。

乗車中は景色を楽しんだり、目の前に広がる大涌谷にワクワクしてきました。



10:10 大涌谷に到着 散策

大涌谷では、新しくできた「伊吹デッキ」や「風の輪テラス」などで、写真を撮ったり、大涌谷名物「黒たまご」を食べたりして各々楽しみました。



11:15 ロープウェイで桃源台に戻る

大涌谷の観光を終えた後、再びロープウェイに乗り桃源台に戻りました。行きは1台で乗れましたが、帰りは3名ずつ分かれて乗車しました。

12:00 桃源台の「桃源台ビューレストラン」にて昼食

当初の予定では、元箱根港についてから昼食の予定でしたが予定していた船に乗れなかったため、予定を変更して同レストランで昼食にすることにしました。レストラン内は広く車椅子で、利用できる広さでした。

ただし、セルフサービスなので、自分で席に持ってくるのが難しい方は介助が必要です。



13:10 海賊船で元箱根港へ

海賊船は乗り降りに段差がなくそのまま乗ることができました。

船内には車椅子スペースや広いスペースがあり、車椅子でも自由に行き来ができました。



13:50 元箱根港に到着

約40分ほどで、元箱根港につきました。

小田原駅に向かうためにバス停に向かいましたが、すごい人で進みづらかったです。

昼食場所を想定し道中見ながら行ったのですが、時間的にも混雑しているし車椅子で入店できそうな店は少なそうだったので、結果としては桃源台で食べて正解でした。

15:00 小田原駅着 UMECOで振り返り

振り返りは、おだわら市民交流センターUMECO（うめこ）にて行いました。内容は後ほどまとめますが、フリースペースはとても使いやすかったです。



16:00 解散

全行程を終え、それぞれの帰路に着きました。

6 当日の振り返り出た意見をまとめると

今回のキャンプ終了後に実施した振り返りでは、参加者・ボランティア双方から多様な意見や提案が寄せられた。これらは今後のステップアップキャンプを発展させていく上で、非常に重要な示唆となった。

まず、**運営面の対応や準備の丁寧さ**に対して評価の声が上がった。参加費の領収証をあらかじめ準備するなど、参加者に対する配慮が行き届いていたことが良かったとの意見があった。初めて参加したメンバーからは、学びや気づきが多く、今後の活動にも活かしていきたいとの感想もあった。また、今後は要約筆記など、聴覚障がいのある人への情報保障の導入についても検討していく必要があるという意見が出た。

次に、**移動や宿泊に関する支援体制の課題**が挙げられた。今回、雨天の中での移動もあったが、それも含めて良い経験になったとの声がある一方で、ヘルパー体制の確保や交通手段の制約により、宿泊参加が難しい人がいるという現実も共有された。特に、移動支援制度を利用している障がい者の場合、時間外の支援が難しく、自費負担が増えるケースもある。そのため、宿泊型だけでなく、**日帰り型のキャンプや短時間の交流イベントを組み合わせる形**も検討する必要があるとの意見があった。

また、今回古山が、知人に参加を呼び掛けたところ、「いきなり泊りではハードルが高い」「日帰りなら参加できる」等 1泊2日に対しての否定的な意見もあった。

障がいがある人達の中には、経験不足からか「箱根」という遠出 しかもいきなり泊りは参加しにくいという意見もあったという。

また、当事者とボランティアの立ち位置・役割の整理も課題として挙げられた。障がいのある方が当事者として参加する場合と、支援者としてボランティア参加する場合との線引きが曖昧な場面があり、今後は参加区分と役割分担を明確にする仕組みづくりが求められる。

7 主催者考察・今後の方向性（新井より）

キャンプ終了後、事務局および参加者による振り返りを行い、その内容を踏まえながら今後の方向性を整理しました。

今回の実施を通して強く感じたのは、「流星館を使ったイベント企画」と「ステップアップキャンプ事業」を明確に分けて考える必要があるということです。

流星館は、全国的にも珍しい“完全バリアフリー型宿泊施設”であり、私たちがこのキャンプを企画するきっかけとなった大切な場所です。

これまでの活動の中で、星槎大学箱根キャンパス・流星館の皆様には多大なるご理解とご協力をいただきました。

その環境があったからこそ、障がいのある方々が安心して宿泊体験を重ねることができました。このことに、心より感謝申し上げます。

一方で、「ステップアップキャンプ事業」は、流星館という場を活用した一実践にとどまらず、**障がいのあるユース世代が主体的に社会へ踏み出す“学びと挑戦のプロセス”を創り出すことを目的としています。**

そのため、特定の施設に依存せず、年間を通じた成長支援の仕組みとして展開していく必要があると感じています。

このキャンプの主な目的は次の2点です。

1. 障がいのあるユース世代が、受け身ではなく“創り手”として社会に関わる機会をつくること
2. ボランティアや学生が、共生社会を担う人材として成長できる実践の場を提供すること

これらを通して私たちが目指すのは、

障がいのある人が「支援される存在」ではなく、「社会の一員として役割を持ち、共

に創る存在」として地域に溶け込み、

一人ひとりが自分のペースで“社会参加のステップ”を積み重ねていける社会です。

一方で、「③障がい者の家族支援・レスパイト（休息）機会の提供」は、ステップアップキャンプの派生的テーマとして重要であり、今後は別のプロジェクトとして整理・展開していく方向が望ましいと考えています。

たとえば、障がい当事者がキャンプに参加している間、家族が安心して休息や旅行を楽しめるような仕組みを作ることで、家族にとっても「支援から解放される時間」や「新しい社会とのつながり」を生み出せる可能性があります。

それは結果として、ステップアップキャンプの理念と相互に支え合う関係になるでしょう。

今後は、宿泊型キャンプに限らず、日帰りイベントやオンライン交流を組み合わせた年間プログラムを設計し、それぞれの当事者が安心して「次の一歩」を踏み出せるような環境を整えていきたいと考えています。

また、ボランティアの育成や情報発信の強化、資金確保の仕組みづくりにも取り組み、事業を継続可能な形に育てていくことを目指します。

最終的には、障がいがあっても自分の力で社会に参加し、仲間と共に新しい価値を創り出す社会の実現です。流星館をはじめ、多くの方々に支えられながら、この事業が「新しい社会参加モデル」として発展していけるよう、今後も丁寧に取り組んでいきます。

8 謝 辞

今回の「第2回箱根ステップアップキャンプ」の実施にあたり、多くの皆さまから温かいご支援とご協力をいただきました。ここに心より感謝申し上げます。

まず、本事業のクラウドファンディングにてご支援を賜りました皆さまに、厚く御礼申し上げます。皆さまからの応援の言葉やご寄付のひとつひとつが、私たちの活動を支える大きな力となりました。

また、開催に際して多大なるご理解とご協力をいただきました**星槎大学箱根キャンパス・流星館の安野様、鈴木様をはじめ、スタッフの皆さま**に、心より感謝申し上げます。バリアフリー対応をはじめとする細やかなご配慮や、快適な環境のご提供により、安心して充実した時間を過ごすことができました。

さらに、準備段階から運営に携わってくださった**実行委員やボランティアの皆さま**にも深く感謝いたします。皆さまの熱意と協力があったからこそ、今回のキャンプを無事に実施することができました。

最後に、ご参加いただいたすべての当事者の方々、そして陰ながら支えてくださったご家族の皆さまに、心より御礼申し上げます。皆さまの参加と笑顔が、私たちにとって何よりの励みとなりました。

今後とも、ステップアップキャンプ事業をより良い形で発展させ、障がいのあるユース世代が社会へ一歩を踏み出す機会を広げていけるよう努めてまいります。引き続き、あたたかいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発行 2025年12月

発行者 ユニバーサル・ピア

箱根ステップアップキャンプ実行委員会

連絡先 新井 丈晴(ユニバーサル・ピア代表)

☎ 090-2901-9029 [✉ info@yunipia.com](mailto:info@yunipia.com)